

○第26回日間賀島さわやかジョギング大会

3月30日、南知多町日間賀島で開催された第26回日間賀島さわやかジョギング大会に、中部地方整備局、清水港湾事務所、当事務所の職員の仲間12名で参加しました。



大会は、沢田壽一南知多町長の挨拶で始まり、県内外から訪れた1500人を越える参加者が、10km、5km、2km、ウォーキングの各部門に別れ、海を眺めながらそれぞれのペースでゴールを目指しました。私たちは、日頃の練習不足とコース終盤の上り坂に苦しみながらも全員無事完走することができました。



スタート



ふぐ、伊勢エビなど新鮮な海の幸

○平成20年度予算成立

港名	事業費
三河港	11億円
衣浦港	6億円
中山水道航路	1億円
海域環境創造・自然再生事業	0.3億円
実施設計調査	0.95億円
合計	19.25億円

3%増)が配分されました。その他には、三河湾への玄関口である中山水道航路の管理・保全事業、中山水道航路整備時に発生した良質な砂を使い三河湾の環境改善を目的とした海域環境創造・自然再生事業(シーブルー事業)、三河湾のさらなる環境改善を目指した実施設計調査費が配分されました。本年度もよりよい港湾づくりを目指して事業を推進していきますので、ご理解ご支援よろしくお願致します。

○衣浦港中央ふ頭東地区4号岸壁で耐震補強実施中



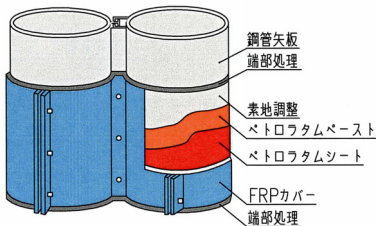
鋼材のさびを防ぐ方法は各種存在しますが、今回は、水中部では直方体の金属アルミニウムを鋼材に取り付ける電気防食工法(鉄よりもイオン化傾向が高いアルミニウムの方がさびるため、鋼材はさびなくなる)、それ以外の部分は、鋼材に海水が当たらないように、鋼材にペトロラタム(石油ワックスの一種)シートと、そのシートを保護するFRP(繊維強化プラスチック)をかぶせるペトロラタムライニング工法を採用しております。

本岸壁は利用頻度が高いため、港の利用に支障が発生しないよう、安全に工事を進めて参ります。

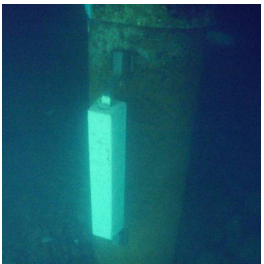
3月28日、平成20年度予算が成立しました。

全国的に公共事業費が削減されている中で、当事務所が担当している三河港神野地区多目的国際ターミナル事業、衣浦港武豊北ふ頭多目的国際ターミナル事業、衣浦港中央ふ頭東岸壁改良事業の必要性が認められ、3つの事業を併せて、17億円(前年度比

衣浦港中央ふ頭東地区4号岸壁は、衣浦港における最大級の岸壁(水深12m)で、昭和58年に供用されて以来、同港の物流の中心施設として稼働してきました。また、衣浦港東側における唯一の耐震岸壁(地震時においても、速やかに使用が可能となるよう強化した岸壁)であり、切迫している東海・東南海地震等の大規模地震発生時には、緊急物資等搬入の中核施設となることが想定されます。しかしながら、当岸壁は鋼材をメインの材料として作られているため、供用開始後20年以上経過し、海中部の腐食(さび)が進行しています。



ペトロラタムライニング工法



電気防食工法

2008年4月号 Mini-WAN

～三河港港湾事務所より～



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

○関門航路事務所が中山水道航路を視察

○「コンプライアンス講習会」開催 ○「第1回三河港臨海部BCM研究会」開催

○「M-wanカップ」開催 ○三河港防波堤(北)ケーソン据付

○第26回日間賀島さわやかジョギング大会 ○平成20年度予算成立

○衣浦港中央ふ頭東地区4号岸壁で耐震補強実施中

☆CONTENTS☆

☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

4月12日、三河港の神野埠頭で、豊橋8号コンテナターミナルのオープン式が開催されました。今年の2月には、2基目の新しいガントリークレーン(コンテナを積み卸しするための専用クレーン)が設置され、4月からは三河港コンテナターミナル(株)が運營業務を開始。これにより大幅にコンテナ貨物の取扱能力が強化されました。

三河港では、モーターショーを開催できるのではないかとと思われるほど国産車、輸入車を至るところで見ることができ、自動車の取扱台数が年間100万台を超える世界で5つの港の1つという、自動車港湾としては世界に冠たる存在ですが、定期コンテナ航路の初就航は平成10年と、コンテナを取扱う港としては新興勢力です。

海外から輸入する場合、国内では陸送コストがかかるため、なるべく最終目的地の近くの港まで船舶で輸送することが費用面からは有利とされています。また、貨物輸送における単位重量あたりのCO2排出量については、船での輸送はトラックの約4分の1と、地球温暖化の観点からも優れています。当事務所としても、三河港コンテナターミナル発展のため、全力で支援をして参ります。

今月に入り、当事務所も約3分の1のメンバーが入れ替わり、新しい体制となりました。引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○ 関門航路事務所が中山水道航路を視察

2月27日、28日の2日間にわたり、九州地方整備局関門航路事務所から2名の方が中山水道航路の視察に来所されました。

中山水道航路は、全国に16カ所ある開発保全航路の1つです。開発保全航路とは、「港や川の区域以外で船舶の交通を確保するための開発および保全に関する工事を必要とする航路」のことで、その区域は政令で定められており、関門航路も同じく指定されています。関門航路は、現在も航路の浚渫工事が続いているのですが、中山水道航路の工事は平成16年に終了し、以降は航路の管理・保全を行っています。



中山水道航路を縦断する大型船



中山水道航路の位置

今回は、管理用のカメラ等の機器類についての視察に加え、お互いの管理方式についての意見交換を行いました。関門航路は中山水道航路と比べ、航路の形はS字で潮流も速いという厳しい状況にあることから、当事務所にとっては大変参考になる話を聞くことができました。

○ 「コンプライアンス講習会」開催

3月6日、中部地方整備局総務部主催のコンプライアンス講習会が開催され、吉井和弘総括調整官、田中亮人事課長補佐による約2時間の講習が、当事務所職員を対象に行われました。

コンプライアンスとは直訳すると「法令遵守」という意味です。国土交通省では、平成13年の官製談合事件を契機に、公務員の非違行為を防ぐために実施すべき対策を緊急にとりました。その一環として、職員の意識改革のためのコンプライアンスの徹底が盛り込まれ、講習会を各事務所等で開催しています。

田中人事課長補佐からは、コンプライアンスとは法令遵守という意味だけでなく、組織に向けられた社会的要請に応えて、しなやかに鋭敏に反応し目的を実現していくことであるとの説明がありました。また、吉井総括調整官からは、公務員の不祥事事例やその結果招いた結末が紹介されました。出張者以外全職員が出席しましたが、改めて国家公務員としての心構えを再確認しました。私たち職員は新たに身を引締めると共に、今まで以上にコンプライアンスを常に意識し、引き続き職務に邁進して参ります。



講習会の様子

○ 「第1回三河港臨海部BCM研究会」開催

3月6日、豊橋サイエンスコアにおいて、第1回三河港臨海部BCM研究会が関係者出席のもとに開催されました。BCMとは、Business Continuity Manegementの略で、「事業継続マネジメント」を意味します。

阪神大震災や新潟中越地震以降、地震等の災害への対策意識が高まっていますが、特に東海地震、東南海・南海地震が懸念され、かつ自動車などのものづくり産業が集積する中部地方においては、災害時の産業活動の速やかな復旧を目指すことは大変重要な課題です。防災は、民間と行政の連携が重要であるため、研究会は産学官のメンバーで行いました。三河港を利用する企業の方からのアンケート結果では、災害時においても、道路や岸壁が平時と同じように機能するようにしてほしいといった要望があり、また出席された方からは、防災をテーマとした企業と行政の定期的な連絡会の開催、防災訓練の共同実施についての意見も頂きました。産業防災については、今年度も引き続き取り組んで参ります。



研究会の様子

○ 「M-wanカップ」開催

3月15日、豊橋市臨海運動広場にて、M-wanカップを当事務所主催により開催いたしました。M-wanカップとは管内の港湾関係の事務所対抗の11人制サッカー大会のことで、今年は3チームの総当たり戦により、熱戦が繰り広げられました。



ナイス！ドリブル

サッカー愛好家からボールを蹴るのは学生の時以来といった方、サッカー日本女子代表のなでしこジャパンを思わせるほど巧みな女性選手まで様々な選手が参加した本大会では珍プレー、好プレーが続出しました。

フルサッカーは予想以上に運動量が多く、試合後半になると足がもつれる選手もいましたが、最後まで懸命にボールを追いかけていました。

当事務所は健闘むなしく3位と地の利を生かすことができませんでしたが、この悔しさをバネに来年の大会に向けて練習に励みたいと思います。

○三河港防波堤（北）ケーソン据付

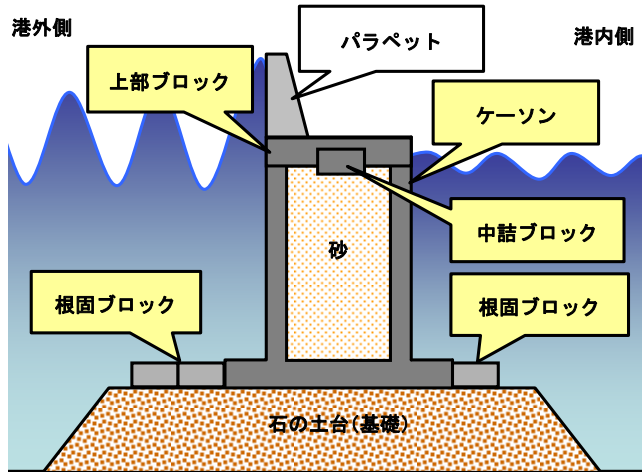
防波堤は、港内への波の侵入を防ぎ、海面を穏やかな状態に保つことで、船の揺れを抑え、港内の航行や、岸壁での荷役作業を安全にできるようにすることを目的としています。今回工事を行った三河港防波堤（北）は、港の一番外側に位置し、三河港の安全を第一線で守ってくれています。本年2月に三河港2基目のガントリークレーンが設置された8号岸壁の整備を優先したことにより、本防波堤の整備は一時中断されていましたが、平成19年度から工事を再開しました。

防波堤は、石で作ったマウンド（土台）の上に、ケーソンと呼ばれるコンクリート製の大きな箱を置き（据付）、ケーソンの中に砂などを詰めて安定させ、コンクリートで蓋をし、更にパラペットと呼ばれる波返しをつけて出来上がります。

本防波堤で使用したケーソンは、従来型と新型の2種類あり、1函当たりの形状は、従来型が長さ9m、幅4.5m、高さ6.5m、重量230トン、新型は長さ9m、幅2.9m、高さ8.5m、重量290トンで、春から秋にかけてケーソンヤード（製作場）で製作した7函を防波堤まで運搬し、据付を行ないました。

据付作業は、起重機船という、重量物を吊上げる専用の船を使います。大きいものでは3千トン級のケーソンを吊上げる船もありますが、今回の工事では比較的小さい500トン級の船を使いました。作業は最も海の荒れる2月に行われたため、据付に適した日が少なく実施日を決めるのに苦労しましたが、事故もなく無事に作業を終えることが出来ました。平成19年度の工事で、防波堤の延長が90m伸び、より安全で使いやすい三河港になりました。

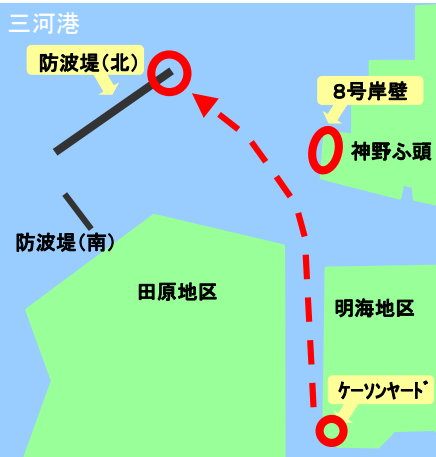
今年度も引き続き工事を行う予定です。



ケーソン据付後の防波堤（北）のイメージ



優勝チームのメンバー



防波堤（北）とケーソンヤードの位置



①ケーソンヤードで製作した7函



②ケーソン運搬中



③ケーソンを吊上げる起重機船



④据付完了